

病防第96号
令和2年7月22日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

令和2年度病虫害発生予察注意報第4号
(イネいもち病)

令和2年度病虫害発生予察注意報第4号

令和2年7月22日
岐 阜 県

作物名 水 稲

病虫害名 いもち病 (穂いもち、葉いもち)

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 7月下旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) BLASTAM (いもち病発生予察システム) によると、県下各地で葉いもちの感染好適または準好適条件が頻出している (表1)。
- (2) 7月中旬に行った発病調査の結果、県下全域で葉いもちの発生が認められ (表2)、一部地域の水田では進展型病斑が認められた。
- (3) 7月上旬以降、日照時間が平年より少なく推移しており、いもち病に対して感受性が高いと考えられる。
- (4) 東海地方1か月予報 (7月16日発表) によると、降水量は平年並~多い、日照時間は平年並~少ないと予測されており、いもち病の感染に好適な条件が続くと考えられる。

5 防除上の注意事項

- (1) 補植用の置き苗は本病の発生源となるので早急に撤去する。
- (2) 本病に対して効果のある長期持続型箱施薬を処理して田植えしたほ場においても、天候や施肥管理条件によっては多発生となる恐れがあるため、必ずほ場を見回り、上位葉に葉いもちの発病が認められた場合は直ちに治療効果がある薬剤の茎葉散布により追加防除を行う。
- (3) 穂いもちに対しては、穂ばらみ期~出穂期に予防的に薬剤を散布する。
- (4) 出穂期を迎える品種において、上位葉に発生が目立ち、穂ばらみ期以降に降雨が連続するなど天候が不順な場合は、穂揃い1週間後に茎葉散布による防除を実施する。
- (5) 本病が多発するほ場では穂肥をひかえる。

表1 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現

地域名		岐阜・西濃地域					中濃地域					東濃地域			飛騨地域											
地点		岐阜	大垣	愛西 海津	関ヶ原	揖斐川	樽見 根尾	美濃	八幡	長滝 白鳥	美濃 加茂	黒川 白川	多治見	中津川	恵那	萩原	宮地 下呂	金山	高山	白川 村	六 廐 荘 川	宮之 前 朝 日	河合	神岡	柘 尾 上 宝	
月	日																									
6	25	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	26	-	-	-	-	●	●	●	●	●	●	-	-	●	●	●	●	●	●	△	△	●	●	△		
	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	◎	
7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	
	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	◎	-	-	-	-	-	
	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9	-	-	●	●	-	●	-	-	◎	●	◎	●	●	●	-	-	-	◎	-	◎	-	-	●	◎	
	10	●	●	●	●	-	-	●	●	◎	●	●	●	●	●	-	-	●	-	●	-	△	●	●	-	
	11	○	○	●	●	-	-	○	-	-	-	-	○	-	●	-	●	●	-	●	-	△	-	-	-	
	12	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	
	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	
15	-	-	-	-	-	●	●	●	◎	-	●	-	●	-	-	-	●	●	●	△	△	●	◎	△		
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-		
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	△	-	△	-	△	◎		
18	-	●	-	●	●	●	-	-	△	-	◎	-	-	●	-	-	-	-	△	-	-	●	-	-		
19	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	◎	-	●	●	●	-	-	-	-	◎		

- ：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃～25℃の範囲にある）
- ◎：準好適条件（湿潤期間が湿潤時間中の平均気温ごとの必要な時間より短い）
- ：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、湿潤期間の平均気温は15～25℃の範囲外）
- ▲：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25℃以上）
- △：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20℃未満）
- ：好適条件、準好適条件は満たされなかった

表2 いもち病発病ほ場率（令和2年7月調査）

地域	発病ほ場率（%）
岐阜・西濃地域（58）	6.9
中濃地域（62）	30.6
東濃地域（60）	31.6
飛騨地域（60）	8.3

※地域名に続くカッコ内の数字は調査水田筆数



図 葉いもちの病斑（高山市）